

まもる通信



活力ある地域社会と人のふれあい
ともにいっしょに

vol.2
2009.7

寺田 守 後援会だより
発行：寺田守後援会 会長 鈴木昌二
袋井市久能1810-11 TEL：(44) 1351
✉ mamorut@yr.tnc.ne.jp

6月市議会定例会 特集

補正予算、副市長2人制、一部事務組合など審議可決。

袋井市議会定例会が、6月2日から23日まで22日の会期で開催されました。この議会で議第54号から64号の11議案と、議員提出の1議案が審議可決され、報第9号から11号の報告がありました。

◎ 緊急雇用事業、補正予算の用途。

この補正予算は失業者の救済を目的とし、県の緊急雇用創出事業として市に2200万円の補正予算が歳入されたことに伴うものです。この予算を、市の生活指導員の臨時採用、不法投棄ごみの回収委託、市道の補修、外国人児童学習支援の教師派遣などにあてることになりました。

◎ 袋井副市長2名を選任。

この改正案は袋井市の副市長を現在の1人から2人に改めるものです。この背景には、いよいよ本格化する新病院建設があります。市は医療・健康・福祉分野の一層の連携と充実を図るため、強力な推進体制を作りたいとして提案しました。副市長には、村田繁樹氏、池野良一氏が選任されました。

なお、任期満了により副市長の永田司良氏は退任、収入役の溝口博氏も退任することになりました。

◎ 掛川・袋井市民病院建設事務組合の設置。

新病院の建設に関する事務を両市共同で処理するため、掛川・袋井市民病院建設事務組合（一部事務組合）を設けることになりました。組合議員の構成は、両市の市議会議員から各5名の10名で構成され、組合事務所は、掛川市大池の勤労者福祉会館内に設置します。この一部事務組合の運営にかかる経費は、掛川市60%、袋井市40%となります。

◎ この他の議案。

- ① 宅地の造成が行われた上久能（東名高速南側／宇刈川西側造成地）に設けられた道路を市道に認定するもの。
- ② 工事請負契約業者2案件の承認／浅羽北小学校体育館改築（契約額2億6,985万円）、山梨幼稚園新築工事（契約額6億1,635万円）。
- ③ 地方消費者行政の充実強化を求める意見書。（議員提案）
- ④ 報告案件／会計の繰越明許に伴うもの2件、車両損害に伴うもの1件。



市議会活動の 出発にあたって



市議会議員 寺田 守

◎当面の活動と取組み

後援会の皆様には、日頃より大変お世話いただいておりますこと心より厚く御礼申し上げます。

皆様から市議会に送り出さずしていただき早3ヶ月になりました。この間、市議会のメンバーとして議会に参加させていただき、幾つかの議案を審議させていただきました。また、一般質問では市当局の見解を聞く機会を得ることが出来ました。議会に望む際の責任の重大さを改めて感じるとともに、質問の工夫や要領について考えさせられた次第です。

さて、これからの私の議員活動ですが、当面次のように取り組んでいきたいと考えています。

まず一つ目は、市の直面している課題や問題を共有し、理解できるところまで急がなくてはならないと思っております。市政の状況については、まだ分からないことが多くあります。まずは市当局、先輩議員と問題意識を共有できるレベルに高めて行かねばならないと思っております。

二つ目は、地域の状況の把握です。自治会長さんから市に挙げられました幾つかの要望書も拝見させて頂いております。また

地域の文化、スポーツ活動などを通じて、ご意見を頂いております。これら地域の皆様からの声をしっかりお聞きし、問題点を共有化していきたいと思っております。

三つ目は、市への環境政策の提言です。この間、国の方針も急速に変化してきており、市としても避けて通れない課題となっております。この課題は、私がこれまで民間会社で学んだ課題と繋がる場所もありますので、これを活かして提案していきたいと思っております。



▲一般質問で傍聴に来られた後援会の皆様と写真撮影
(6月9日/市役所玄関前にて)

議員活動の出発に際し、皆様方のお声を聞きながら一生懸命頑張りたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

常任委員会委員「民生福祉委員会」に所属

5月の臨時会で今年度の常任委員の改選があり、私は「民生福祉委員会」に就くことになりました。

当委員会の所轄事務は、健康づくり、スポーツ振興、戸籍、介護保険、国民健康保険、社会福祉、病院などがあります。

いずれも大事な仕事ばかりですが、特にこれか

ら重要になるのは、現袋井病院の存続の問題があります。現在の袋井病院をどのように活かしていくのか、方向をしっかりとさせていかななくてはなりません。皆さんの声を受けとめ、市政に反映させて行きます。

私の一般質問と市の回答



▲月見の里学遊館の太陽光発電

太陽光発電と袋井市政

地球温暖化防止のため二酸化炭素の削減が問われていますが、その切り札として注目されているものに太陽光発電があります。国はこの10年間で太陽光発電を20倍にしようとしています。

現在、国は機器購入の支援策として民間住宅に28万円を上限とする補助を行っています。袋井市も4万円を上限とする助成を行っております。また、発電した余剰電力を電力会社に買い取ってもらう制度があります。

現在太陽光発電パネルの発電量は1㎡当たり年間150kWh、金額に換算して1,700円～3,200円位と言われています。次年度、電力買取価格が2倍になると一挙に普及が進む可能性があります。

市は公共施設にも設置を進めていますが、まだまだ不十分です。既存の施設、遊休地などに進めていけば、環境政策に貢献できる他、地産地消エネルギーの活用、エネルギーコストの削減にもつながることになります。

◎太陽光発電への市の取り組み

問：市は今年度、太陽光発電システムなど新エネルギー導入促進事業として970万円の奨励金を予算化しているが、予算を消化してしまっただ後の、市の対応措置があればご案内いただきたい。

答：状況を見て対応をしていきたい。補正予算を組むことも考えられる。

問：太陽光発電について、公共施設への設置状況、また民間住宅への普及促進について市の方針を教えてください。

答：太陽光発電を含め市は、「2009-2018 袋井市環境基本計画」に方針を定めている。民間住宅への奨励措置のほか、公共施設では、学遊館、建設中のメロプラザなどで設置を行っており、今後も増やして行きたい。

問：普及に当たって、国の補助金制度の活用、市独自の普及システムの検討など取り組んでいることがあるか。

答：市の単独の事業では限界がある。今後、今は実施されていない県の助成なども要請していきたい。

◎バイオマスタウン構想について

問：市のバイオマスタウン構想が公表されたが、市がこれから特に重視し、検討している計画はあるか。

答：これまでの取り組みには、廃食用油の車両ディーゼル燃料への利活用、木材ペレットのメロン温室ボイラーへの利活用などの実績もある。今後、採算性など勘案しながら計画を進めて行きたい。

問：方針は示されたが今後どのように見直しを掛けていくのか。今後の取り組み、推進組織など教えてください。

答：バイオマスの技術は日進月歩であり、産学官連携での取り組みを検討している。「袋井市バイオマス利活用推進協議会」(仮称)といった組織を立ち上げる準備をしている。

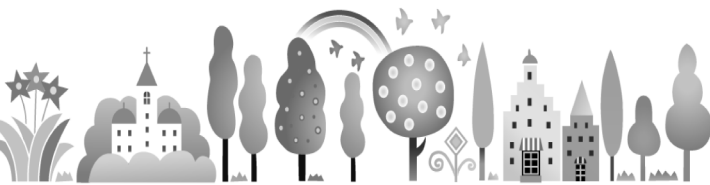
★バイオマスタウン構想とは

バイオマスタウン構想とは、現在国が進めている環境政策の一つです。バイオマスとは生物を由縁とする資源のことで、紙や廃食用油、家畜排泄物などの廃棄物系、間伐材や稲わらなどの未利用系、菜種、ひまわりなどの資源作物の栽培などがあります。袋井市は3月に県下で3番目に早い公表を行って認可され、次の展開が期待されています。



☺みんなの力で住み良いまちをつくろう

まちがどウォッチング



村松山科線の延長開通

県の補助事業として行われていた村松山科線と東通久能線の工事がほぼ完了し、5月25日より通行可能となりました。森街道（袋井駅森線）の渋滞が緩和され、一帯のアクセスが良くなりました。しかし、太郎兵衛新道・村松方面へと続く道路の延長、通学路の安全確保など、これからの課題も残されています。

整備進む久野城址

総事業費7,648万円余の事業費で3年がかりで進められてきた久野城址整備事業が最終年度を迎え、散策路、休憩施設、トイレなどの整備が進んでいます。

6月21日には久野城址保存会（山田宗男会長）の総会が北公民館で開催され今年度の方針などが採択されました。



山梨区画整理事業とからくり時計

6月27日、山梨でからくり時計の除幕式が行われました。これは上山梨第二土地区画整理事業に伴い、街並みの整備を記念して建てられたものです。からくり時計や周辺の電力は、整理事業の月見の里記念館から採取しています。



▶ 新設された記念館屋根には、太陽光発電パネルが取り付けられています。



編集
後記

後援会だよりの第2号を発行しました。結成大会特集から4ヶ月、今回は6月議会の特集を行いました。後援会だよりへのご意見、また市政へのご意見などありましたら、どしどしお寄せ下さい。皆様の意見で紙面を良くして行きます。